



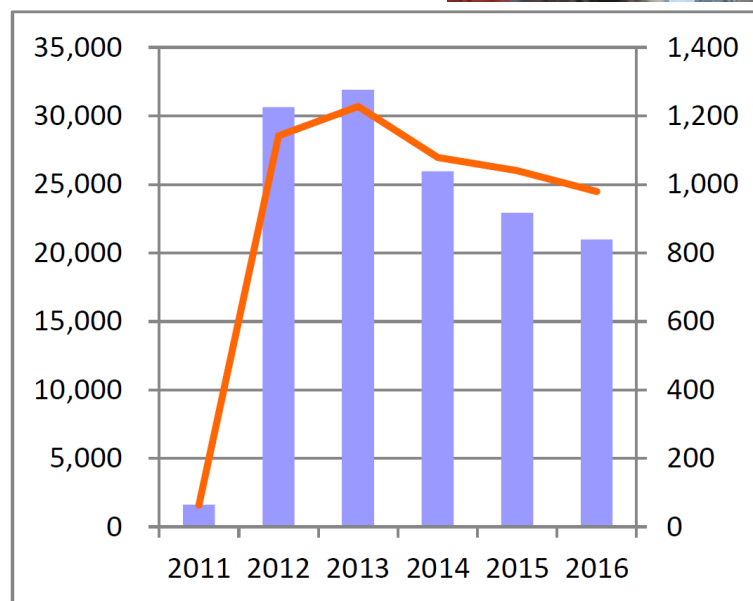
みらいサポート石巻の取り組み ～震災支援の連携から震災伝承の連携へ～

公益社団法人みらいサポート石巻

藤間 千尋

石巻の震災伝承の状況

- 石巻観光ボランティア協会をはじめ、
多くの方々・団体が震災伝承や
被災地現状を発信
- 未曾有の大震災なので
「震災伝承」も初めて
- 行政に担当部署・予算がなかった
(関係はあるが“担当”ではなかった)
- 来訪者が急増→減少

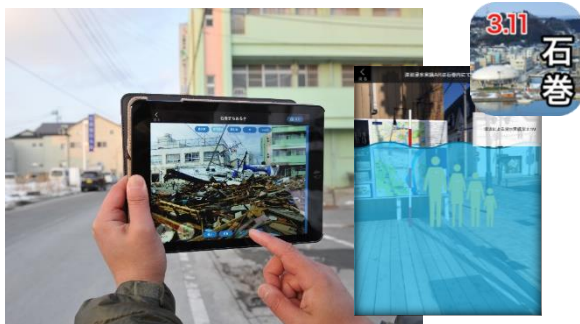


宮城県沿岸被災地における震災学習プログラム
年度別受入れ件数・人数の推移(8市町10団体)

みらいサポート石巻の伝承の取り組み

● 語り部等の震災学習プログラム

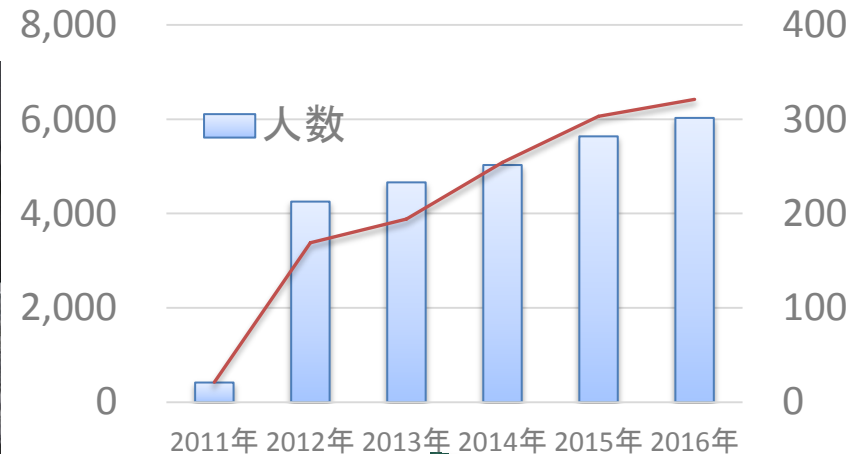
ARアプリを使った防災まちあるき



総務省 地域情報化大賞特別賞(2015)



県全体で減少傾向だが、当会は増加



● 「料理店の震災談義」発行協力

記録に残りにくい小規模飲食店の実体験

● 南浜つなぐ館での伝承

- 1700世帯が流出した地域での実情発信
- ICTの活用: VRグラス、ドローン

BCAOアワード2014
企業防災賞・
震災対応特別賞



被災地への関心が低下するなかでも、
活動内容の評価向上

「語り部」と「バス案内」

震災の語り部

- 語り部の個人的な体験
例) 祖母からの教え
避難行動の失敗
家族への想い
会社の復旧状況など

個人の体験に
じっくり共感

バス案内

- 走行ルートでの被災状況説明
- 訪問者の車両で実施
- 「事実」を伝えやすい
- 「広い」学び

現場を見ながら
状況把握

希望に合わせて
どちらか／どちらも
選択可能



「防災まちあるき」

- 石巻津波伝承ARアプリを活用した、**東北初**のまちあるきプログラム



- 総務省より 地方創生に資する「地域情報化大賞」特別賞受賞

過去

現在

未来



「防災まちあるき」感想

ARアプリと防災まちあるきによる追体験

「こんなところまで浸かっている
なんて信じられない。」

実際に街歩きをして感じたことは、自分が歩いているところまで波が押し寄せてくる気配が全然ないということです。でも、実際に波が押し寄せてきたのは紛れもない事実であって、ここには波が来ないという主観的な憶測がいかに怖いことであるかを肌で感じました。自分自身の防災意識を強く改めるきっかけになりました。

の当時の様子を少しは知れたかなと思ったり、明るい未来も知って安心しました。もっと明るい未来になるよう頑張りたいです。私たちも頑張ります!

見
3
見
と、今の海を見比べ
とき たっぴに2日でボウに取った人
ちが復興に進んでいる海に感動
ました。



参加者アンケート結果(ガイドの重要性)

案内ガイドからの津波や被害の様子の説明 (=112)

まあまあ良かった
15%

とても良かった
85%

5. とても良かった
 4. まあまあ良かった
- の肯定的評価が

100%

ICTツールに加えて
「案内ガイド」の説明
融合させたことで、
参加者へ効果的に伝承



「語り部と歩く3.11」

- 少人数グループで、語り部の体験した場所をまちあるき
- 体験・交流を希望する学校向け。リピーターの学校も。



参加者からの「学び」の声

講話も聞いたときはどこか人ごとだったけど、実際に行ってみると
とてもよくわかりました。写真で比較しながら語り部さんと歩いたとき、
1800世帯も住宅があったと聞いていたけれど、見たのは一面水にひたひた
草原で、津波を体験していない私では恐ろしいと感じました。道には

「あの瞬間の判断がおそかったから、遅う池を通、(1)班
していたら、わたしはここに立っていられたかたでしょう。」
という言葉を。私はこの言葉がずくずくと心に残り、
一瞬の判断が、とっさの判断が命を救うのだとわかりました。
私はこれから、自分の命を守るために、察知で、この地域の
災害に合った避難場所や避難方法を言合いたいです。また、
自分に必要なものを準備することも実行したいです。

「出張語り部」、振り返り

- 石巻でのプログラムを有意義にするため、事前の「出張語り部」や振り返り会のアレンジも可能。



出張語り部

- 学校での避難訓練等にあわせ、事前学習



石巻での学習

- 語り部と歩く3.11など



振り返り会

- 記憶が鮮明な当日に、事後学習

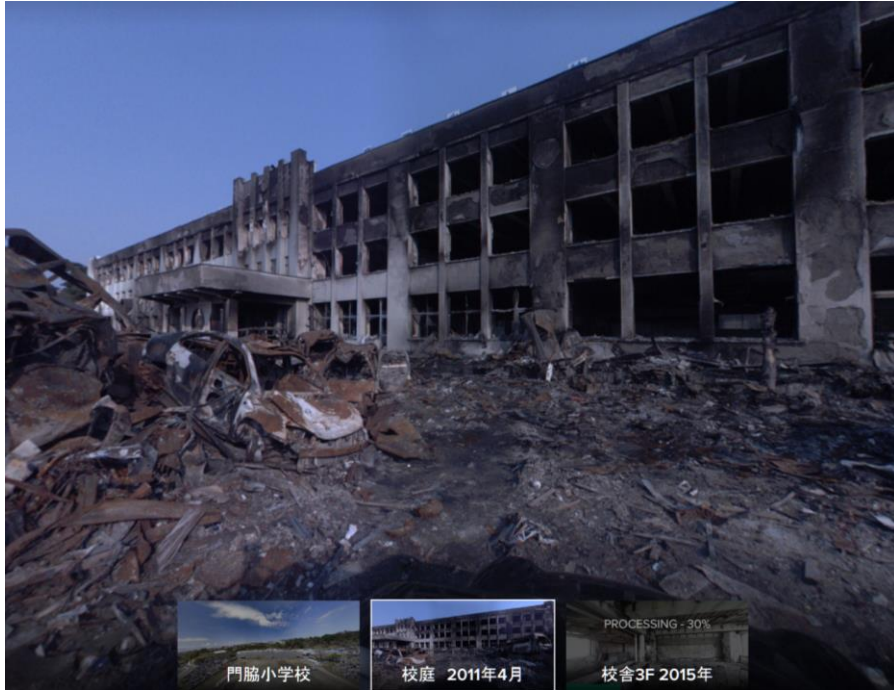
祈念公園整備を見据えた南浜つなぐ館拡張

- 国営追悼施設を含む、国・県・市の祈念公園が南浜に整備予定
- 2020年の行政整備までの間、民間の体制準備・「つなぎ」が必要
- 2016年に設置後、来訪者が伸び続け、手狭に。
- 震災を伝える小規模シアター、地域の方が集う下屋を設置

資金不足のため、クラウドファンディングに挑戦した



ICTを活用した伝承コンテンツ作成 VRグラス



ICTを活用した伝承コンテンツ作成 ドローンを活用した3Dモデル

KadowakiSchoolRev

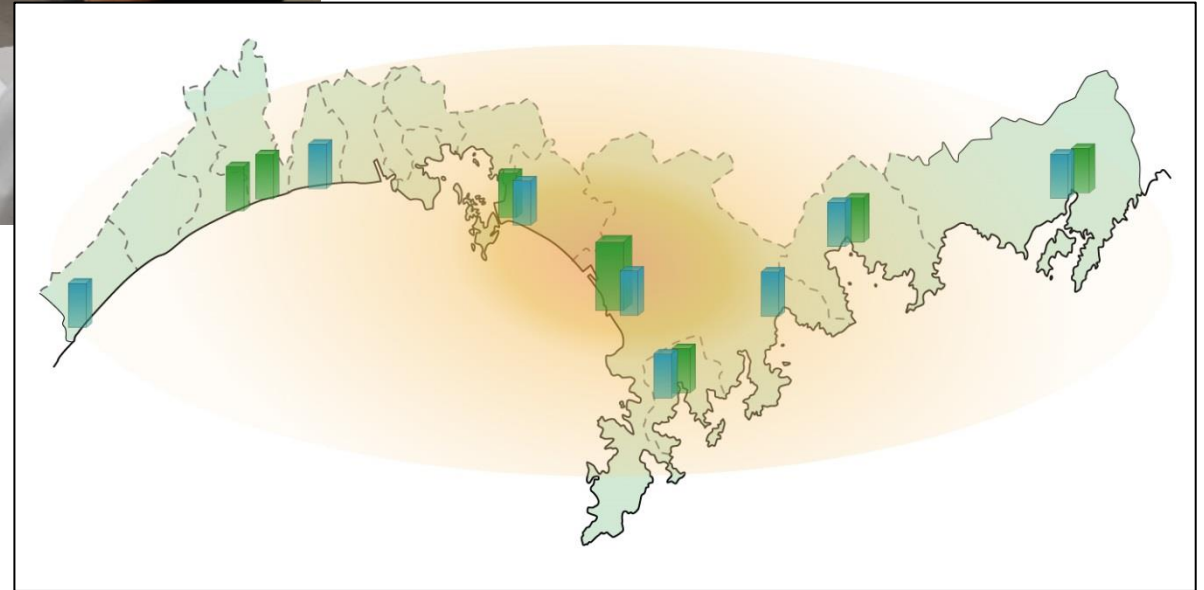


WEBサイトで公開
http://ishinomaki-support.com/resilience_170623

震災支援の連携から、震災伝承の連携へ



震災学習協働体制構築
コンファレンス



3. 11メモリアルネットワーク

震災学習コンファレンスにおける“協働”

- 第1回 2015年12月 ~ 第15回以降継続中
- メンバー: 行政・民間・研究者どなたでも参加自由
(国、県、市、大学、観光協会、NPO、遺族有志、個人語り部など)
- 視察先: 話し合いで決定
中越、神戸、岩手など
- 意見シートを参加者で整理



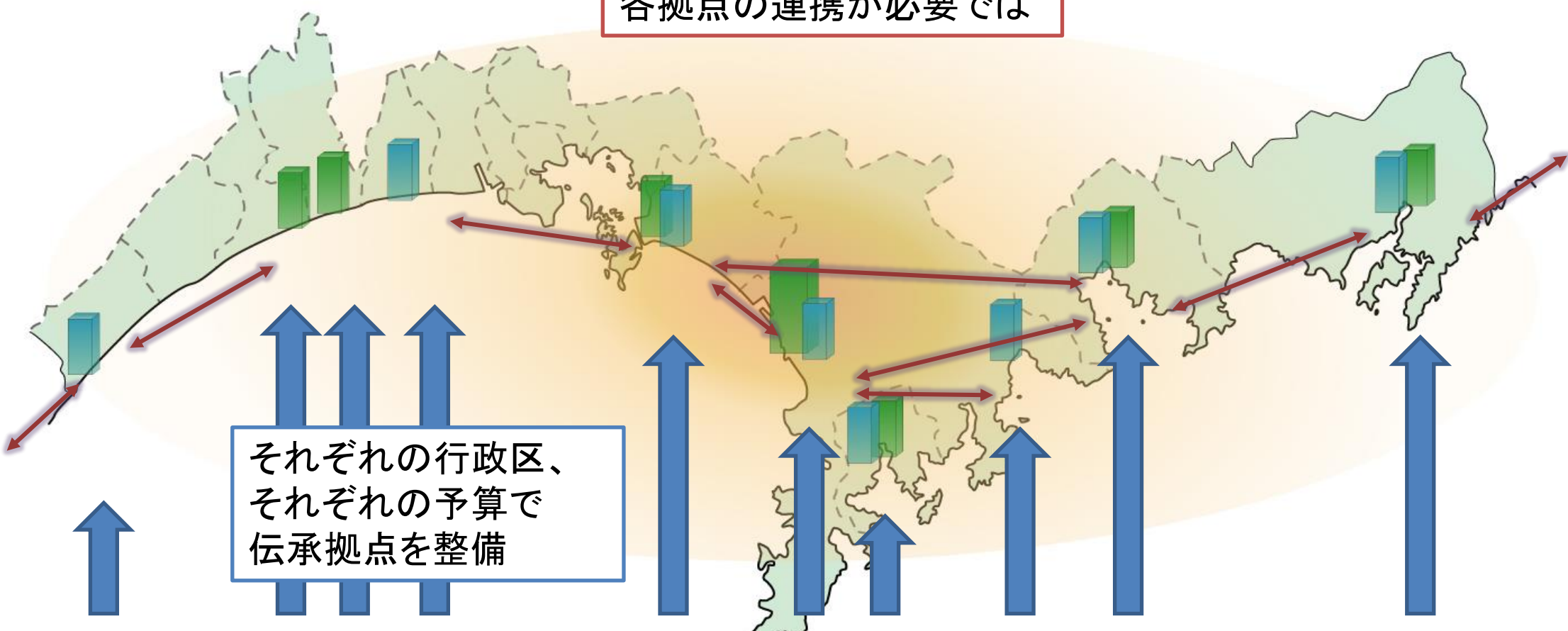
- 12の基本方針を策定、共有
- ビジターズ産業ネットワークでの語り部テキスト作成、伝えたいことの整理、語り部共有会など「自分たちで出来ること」を具体化、共有



各地の伝承活動の連携

3. 11メモリアルネットワーク

各拠点の連携が必要では



行政

被災地沿岸各地に祈念公園、震災遺構などの伝承拠点を整備